

夜、パソコンの明かりに誘われてやって来たナミテントウが、キーボードの上からまさに飛び立とうとする一瞬です。何度も飛び立つところを目の前で見えていたのですが、動きがあまりにも速く、シャッターを切ったときにはすでに画面の外。ところが、なぜかこの個体は「と」のキーが気に入ったようで、何度もここに戻ってきました。「飛ぶ」の「と」だからでしょうか。三度目の挑戦で、ようやくその瞬間を写真に収めることができました。

普段目にしている赤と黒の硬い翅は、飛ぶための主翼ではなく、前翅が変化した「鞘翅（しょうし）」です。飛び立つときには、この鞘翅を左右斜め上へ大きく持ち上げ、その下に小さく折り畳んで収納していた薄い後翅を一気に引き出します。写真には、まさに後翅が左右へ展開し、飛翔の準備が整おうとしている瞬間が写っています。

何より驚いたのは、その後翅の大きさです。丸く小さな体からは想像できないほど広く、薄く半透明の翅が左右に伸びています。後翅には細かな翅脈と折り目があり、休んでいるときには巧妙に折り畳まれて鞘翅の下に収まっています。それが飛び立つ一瞬に展開され、羽ばたくための大きな翼へと変身します。いつもはキーボードの上をのんびり歩いていた小さなテントウムシ。その背中に、こんな見事な「折り畳み翼」が隠されていたとは、撮影して初めて実感できました。

(2026 年 8 月中旬／北軽井沢)

